

第64回宇宙政策委員会 議事要旨

1. 日時：平成29年11月16日（木） 10:00-11:15

2. 場所：内閣府宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

(1) 委員

葛西委員長、青木委員、中須賀委員、松本委員、山川委員、山崎委員

(2) 政府側

宇宙開発戦略推進事務局 高田事務局長、佐藤参事官、高倉参事官、滝澤参事官、山口参事官、行松参事官

4. 議事要旨

(1) 宇宙ビジネス創出の取組について

宇宙開発戦略推進事務局、関係府省より説明を行った。委員からは以下の様な意見があった。

(以下、○委員からの意見、質問、●事務局及び関係府省からの回答)

- 宇宙ビジネスの創出に向けて種々の取組が着実に進んでいるという認識。先日の宇宙ビジネスアイデアコンテスト「S-Booster」では、300件を超える応募があったとのことだが、こうした取組をしっかりと実行していくことが重要。
- 一方で、今回のS-Boosterは技術的にはまだ詰めなければいけないアイデアもあったという印象。技術面のメンターも導入していくと良いのではないか。
- いずれにせよ、継続とフィードバックが必要である。引き続き、着実に取組を進めていっていただきたい。
- 「S-Booster」などについて、受賞された提案などを、今後どのようにファンディング・事業化にどうつなげていくか。
- 「S-Booster」は本年初の取組であったが、今後アンケートやヒアリングを実施し、来年度に向けた検討を行っていく予定。関係省庁の様々な支援ツールも活用しながら、事業化に向けた支援を行っていきたい。
- 準天頂衛星「みちびき」の利用について、まずは、とっかかりとして、都市部ではなく、交通量の少ない田舎などにおけるオンデマンドでの自動走行を進めていくのが良いのではないか。

(2) 工程表改訂に向けた各部会の検討状況について

宇宙開発戦略推進事務局より説明を行った。委員からは以下の様な意見があった。

- 「S-Booster」や「宇宙データ利用モデル事業」については、採択されなかった案件も含めて、広い意味でのビジネス面・技術面からのマッチングが必要。
 - そのためには、S(エス)-NET(ネット)などのワンストップ相談窓口の充実・強化が非常に重要になって来ると思う。
 - 「衛星データのオープン&フリー化」については、利用者側のニーズを吸い上げが必要。プラットフォームの設計にあたっては、宇宙政策委員会の場でも議論し、使いやすいものを構築していくことが重要。
 - 50を超える工程表の各施策を着実に実現するためには、宇宙関連予算全体の規模の拡充が必須。
- (3) 衛星リモセンデータに関する基本的考え方について
宇宙開発戦略推進事務局より説明を行った。委員からは以下の様な意見があった。
- 規制と活性化のバランスが必要。安全性を確保しつつも、「規制法」にはならないようにしていただきたい。
 - 近年、リモセンの解析は、人間ではなく、AIが行う時代になってきた。については、今後、政府が規制や戦略を策定するにあたっては、こうした新しい世の中において、どうあるべきかという観点も必要。

以上